

# ハネビロエゾトンボ

*Somatochlora clavata* Oguma

## トンボ目エゾトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

### 選定理由

元来は珍種であるにもかかわらず1950~60年代に金沢付近で多産したが、1991年に2頭採集されたのを最後に、県内でまったく確認できなかった。最近、小松市と志賀町で再発見されている。

### 形態

腹長37~47mm、後翅長39~45mmの金緑色で、頑丈な感じの中型種。第1~2腹節がふくらみ、胸側に2黄条があり、メスの生殖弁は下方に突出する。

### 国内分布

日本特産種で、北海道から南九州にまで分布するが、産地は極めて限定される。福井県では1997年に初めて発見され、富山県でも同年に採集されている。

### 県内分布

現在、小松市と志賀町で確認されている。かつては金沢市の丘陵地帯の用水や水田の溝に多産したが、現在は確認されていない。また、旧松任市や野々市町での採集例もある。

### 生態

幼虫は丘陵や平地の流れの緩い小川や用水の砂泥底に育ち、成虫は7月中旬から羽化する。未熟期は林野に分散し、やや高空を旋回しつつ摂食飛行を行なう。8月上~中旬から生殖水域に現れ、オスは用水や水田上で滞空型の縄ばりを占め、空中によく停飛する。メスは、浅い淀みに単独で水面または泥を腹端で打つようにして、生殖弁から卵を産下する。

### 生息地の条件

適当な水量が保たれ、汚染のない緩やかな小川や用水路が存在すること。側壁がコンクリートでなく、泥または砂泥底で、岸辺には植生があり、付近に摂食や休息用の疎林が存在することも要件。

### 生存の危機

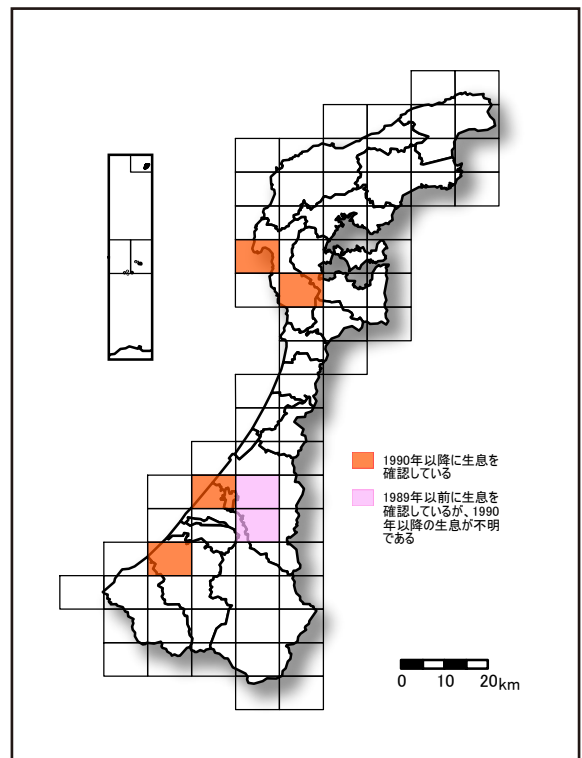
里山から平地の水田地帯は、農業や廃水の流入、廃棄物の投入、用水の暗渠化やコンクリート化の影響が大きい。摂食期には分散するため、広域にわたる環境保護が必要。乾田化で、用水が干上がることも影響する。金沢市の長坂用水はコンクリート化、人家も増え汚染が進み、野田山丘陵の害虫駆除とあいまって本種とキイロサナエの絶滅をもたらした。志賀町の個体数は少なく、絶滅の危険性が高い。(A)

### 参考文献

武藤 明 1960. ハネビロエゾトンボの生態. *Tombo*, 3 : 8-15.  
武藤 明 2006. 石川県の蜻蛉目. とっくりばち, (74) : 7-19.



標本提供者: 武藤明



県内の分布